

「本誌の査読方針と査読者の心得」について

一般社団法人 日本呼吸療法医学会 機関誌「人工呼吸」編集委員会
前編集委員長 中根 正樹

本誌の編集は、他誌と同様に、編集委員長、副委員長、編集委員、査読者、そして著者らによる共同作業となるが、これら関係者のほとんどは「査読」について学ぶ機会がないのが現状である。査読についての知識を得たいのであれば、科学雑誌の出版倫理にかかわる問題について協議・勧告を行う非営利団体である COPE (Committee on Publication Ethics) が公表している COPE Ethical Guidelines for Peer Reviewers というガイドラインがあるのでホームページから参照いただきたい。

http://publicationethics.org/files/Ethical_guidelines_for_peer_reviewers_0.pdf

1. 査読に関する主な注意点

- 1) 査読者には守秘義務がある。多くの雑誌では査読者からは著者がわかるが、著者からは査読者がわからない仕組みになっており、公平性を保つには便利であるが、査読者はその点に注意し守秘義務を負っていることを忘れてはならない。もちろん、著者本人に自分が査読していることを教えてはならない。この査読者の匿名性は査読者を守るためにも存在していると考えべきである。
- 2) 著者の人格や人間性を批判・攻撃するようなレポートを書いてはいけない。査読システムは、科学的コミュニティの良心と善意に基づいていることを査読者は肝に銘じるべきであろう。
- 3) 査読に関連した不正行為をしてはいけない。とくに、競争相手の論文を査読する場合もありうるため、細心の配慮を要する。その論文の審査を遅らせて自らの論文作成を急ぐ、あるいはアイデアを盗む、というような不正行為は絶対にしてはならない。

2. 査読依頼と応諾

本誌では、査読可能かどうかの打診を E-mail で行っている。「多忙であり期限内に完了できない」「論文が自分の専門分野と異なる」といった場合には、その理由を編集委員会に伝えて辞退することもでき、期限の延長も許容される。編集者にとっても著者にとっても時間の節約となる。辞退する場合には自分の他にふさわしいと思われる査読者候補を推薦していただきたい。また、査読を自分の周囲の若手に手伝ってもらうことは若い研究者の教育において望ましいことではあるが、その場合、最終的な判断は自身で責任を持って行うべきである。もし、査読プロセスの大部分を他人が行った場合には、あらかじめ編集委員会にその旨を知らせるべきである。そもそも査読者に選ばれたということは、当該論文を査読する能力があり、適任者であるとの編集委員会の判断によるものであり、以上のよ

うな場合の連絡は不可欠である。

3. 査読コメントの書き方

まずは全般的なコメントとして、その論文がどのような研究であり、どのようなことを主張しているかについてまとめ、そのうえでその論文の総評を簡潔に記す。ここでは、「採択可能」とか「不採用」とか、論文の採否に関することは決して書いてはいけない。

次に「Major comments」であるが、これは論文の採否にかかわるような重要な問題点について、箇条書きで1つずつ示しながら、もし問題箇所が示せれば「何ページの何行目から何行目まで」と書き、具体的に改訂のアドバイスを記すものである。一方、「Minor comments」では、スタイルの誤り、字句の誤り、言葉の使い方、誤字脱字などの小さな修正点の指摘が相当し、文章を読みやすくする工夫なども含む。用語や略記号については以下を参照していただきたい。

- ・「日本呼吸療法医学会用語集」<https://jrcm.securesite.jp/yougo/>
- ・「略記号表記について」http://square.umin.ac.jp/jrcm/pdf/ryakukigou_itiran.pdf

いずれのコメントも“前向き”かつ“建設的”であるべきで、単なる批判や抽象的なコメントは避けるべきである。良い点も悪い点も、どのように良いのか悪いのかを示すと、著者にとっても有益となる。すなわち、より良い論文へと改訂していくための方向性を示すことが大切である。もし著者には知らせたくなく、編集委員会にだけ伝えたいことがある場合には、その旨を記載して別紙に内容を記して提出する。

4. 採否の判断

本誌では、編集委員会による採否の判断材料とするために、査読者の意見を4通りに分けている。

- 1) このまま掲載可
- 2) 掲載可であるが、事務レベルで確認・修正の必要な点がある
- 3) 著者による修正と再査読が必要である
- 4) 掲載不相当

何の修正も必要がない完璧な投稿論文原稿はそれほど多くはないが、問題なければ1)を選択する。誤字脱字や言い回しなどの「Minor comments」に対する修正だけでよく、再査読による確認が必要なければ2)を選択する。「Major comments」となるような重要な問題点の指摘と改訂の提言がある場合には、査読者による修正原稿の再評価と確認が必要となるため3)を選択する。いくら修正しても本誌への掲載は不可能であろうという場合は4)を選択する。

5. 本誌論文査読の基本方針

本誌への投稿は、論文執筆に慣れた医師だけでなく、そうでない若手医師、看護師、臨

床工学技士、理学療法士などからも比較的多く見受けられる。何度も査読が必要になることが予想されたり改訂を繰り返しても採択の可能性が低い論文に対しては、一流誌では「不採用」や「掲載不相当」と一蹴することも少なくないが、本誌では可能な限り“前向き”に改善の方向性を示し、最終的により良い論文として本誌に掲載可能なレベルまで到達するよう“建設的”なアドバイスを行っていくことを基本方針としている。

論文の採否の決定は当然ながら科学雑誌のレベルとその論文の質により行われる。本学会員の興味を惹くようなテーマであったり、読者に少しでも有益性が見いだせれば、採用の可能性を探るべきである。方法に問題がなく、結果がきちんと示され、解析ならびに適切な解釈がなされている場合には、たとえその結果が査読者の予想や考えと異なっても、「掲載不相当」とすべきではない。最終的に論文の内容に責任を持つのは著者であって編集委員会や査読者ではない。

なお、本来であれば、再査読に際して一度目の査読で指摘しなかったことを二回目以降の査読結果に新たに加えて批評することは、著者に混乱を与え、いたずらに時間がかかるために、大幅な改訂が行われた場合を除いては推奨されない。一度目の査読を念入りに行うべきである。

6. 不正行為が疑われた場合

査読中に不正行為に遭遇した場合には可及的速やかにその旨を編集委員会に伝える。盗用、捏造、改ざんなどが疑われる場合には編集委員会と著者の間でやり取りが行われるため、査読者が関わる必要はない。重複投稿や類似投稿も不正行為であるが、2つの雑誌に同時に投稿された論文が同一の査読者に送られ発覚する場合以外には、その発見は難しい。詳細は、本誌の不正論文取り扱い規約を参照いただきたい。

http://square.umin.ac.jp/jrcm/pdf/toukou_fusei.pdf

7. 利益相反に関すること

利益相反（COI、Conflict of interest）については、著者全員の情報を論文の末尾に記載する必要がある。査読者は著者らのCOIに問題があると考えたときには、その旨を編集委員会に伝えるべきである。また、COIのある論文については、そのことを考慮して査読を行わなければならない。本誌の誌面で論文など発表を行うすべての著者に対して、COIの種別と金額などを示した利益相反申告書を投稿の際に入力し提出することになっている。

<https://jrcm.securesite.jp/coi/>

8. 査読者に選ばれたことの誇り

忙しい時間を割いて他人の論文を匿名かつ無報酬で審査するのは大変な作業であるが、ピアレビューは科学の成果を評価する優れたシステムであり、お互い様と考えられ、世界中のあらゆる分野の科学雑誌で良心的に行われている。査読を依頼されるということはそ

の領域の第一人者と認められていることであり自信を持ってよい。査読を快く引き受けることによりその雑誌の編集委員への道が開けるかもしれない。実際、査読を引き受けることにより学べることも多い。たとえば、他人の論文の構成の悪さを指摘することは、自分が今後、論文を書く際に構成を良くする意識や技術につながるであろうし、数名いる他の査読者がどのように査読したかを知ることで、今後の査読や論文執筆に多いに参考になる。査読も業績の 1 つと考えられるため自分が査読した論文の雑誌名や回数などは記録しておくといよい。

2017 年 7 月吉日

事務局注：2025 年 5 月の第 3 版改訂、利益相反申請方法の変更によるリンク先の修正